

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2022年度 連携型共同研究 成果報告書

研究課題名	外国人留学生向け日本文化体験プログラムの支援活動を通じた大学生の生活文化理解に関する研究
研究代表者	西川 章江（大阪教育大学 教育学部 准教授）
共同研究者	碓田 智子（大阪教育大学 教育学部 教授） 米澤 千昌（大阪教育大学 教育学部 特任講師） 小池 志保子（大阪公立大学 生活科学研究科 教授）

本研究では、「日本文化体験プログラム」をサポートする日本人大学生の視点から、若者における日本の生活文化継承のための課題を抽出し、その解決策を検討した。

1) 大学生が外国人に自国の生活文化、特に食文化を伝えるための課題についての調査

日本人大学生を対象に、日本の伝統や文化の継承について、外国人に日本の食文化等の生活文化を伝えることが難しいか（語学力以外）、食事内容で意識すること、外国人に日本の食文化等の生活文化を伝えるために必要なこと等について自記式無記名質問紙調査を行った。その結果、大学生は、「和食」をはじめとした日本の食文化を大切にしているが、日々の食事に活かしていないことが明らかとなった。したがって、大学生は食文化・生活文化の継承に関して重要視しているが、実際に行動できていないことが窺えた。「外国人に日本の食文化等の生活文化を伝えることは難しいか」の問いについては、半数以上が難しいと回答した。その理由には、「日本文化への知識不足」、「宗教の違い」等が挙げられた。「外国人に日本の食文化等の生活文化を伝えるために必要なこと」は、「相手の国の食文化等の生活文化を知り、自分の文化との相違点を見つけること」、「積極的なアピール」、「一緒に食べる」等であった。これらのことから、若者が体験支援スタッフとして外国人留学生向けの日本文化体験プログラムに参加するには、日本文化だけでなく、参加する留学生の国の文化も事前学習する必要があることが示唆された。

2) 日本文化体験学習プログラムを実践と生活文化理解に繋がるサポート方法の検討

以下の2つの日本文化体験学習プログラムを実施し、サポートした学生らの評価を検討した。

① 住文化の体験プログラム

大阪教育大学の外国人留学生対象の授業「大阪の文化Ⅱ」の一環として、国指定重要文化財・奥田家住宅で住まいの歴史・建築技術・生活文化を体験的に学べるプログラムを実施した。対象の留学生を3グループに分け、当主による住宅の概要説明のあと、茶室での茶会、建物解説、昔の生活体験を交代で行った。さらに、かまどで炊いた雑穀米のおにぎりの試食も行った。各体験にサポートする大学生を1~2名配置した。

② 和菓子づくりの体験プログラム

コロナウイルス感染予防対策を講じた上、学内の調理実習室にて和菓子づくり体験を実施した。対象留学生を7班に分け、各班にサポートする大学生を1名配置した。

①または②の体験学習プログラムをサポートした日本人学生に、外国人留学生に対する生活文化体験支援活動も含めこれまでの関わり方、困難さや解決策について、半構造化のグループインタビューを実施した。その結果、奥田家住宅での日本文化体験学習プログラムでは、道具の名前や使い方等を説明するときに、日本語ではうまく伝わらず、翻訳アプリ、あるいは学部留学生の通訳で対応したと述べた。和菓子づくり体験をサポートした学生は、作り方を身振り手振りで十分に対応できたと述べた。また、どちらの支援活動においても共通して、参加した留学生の出身国の生活文化について、日本との相違点や共通点をあらかじめ知っていればよかったと述べていた。

以上から、大学生において、外国人留学生への支援活動を通して日本の生活・伝統文化の理解につなげるためには、大学生への日本だけでなく、外国の生活文化について事前学習することが重要であると考えられる。また、外国人留学生と日本人大学生が共に日本文化を学ぶ学習環境の整備が課題と考える。

